



シェイクハンド

第57号
R元.9

～静岡県訪問看護ステーション協議会便り～

なやみは半分、よろこび倍増

さあ みんなで手をつなごう!!

訪問看護に期待すること

静岡県健康福祉部理事（医療介護連携対策・社会健康医学推進担当） 石田 貴



静岡県健康福祉部理事の石田です。一般社団法人静岡県訪問看護ステーション協議会の皆様におかれましては、日頃から、地域における在宅医療・介護の推進に御尽力をいただいておりますことに対して心から感謝申し上げます。

さて、我が国では超高齢社会を迎え、団塊の世代が後期高齢者となる2025年が目前に迫っており、さらには2040年を見据えて、医療・介護の再構築が求められています。誰もが、いつまでも住み慣れた地域で安心して暮らし続けるためには、必要な医療・介護サービスが受けられ、安心して自分らしく暮らすことができる社会、すなわち地域包括ケアシステムの実現が重要です。中でも訪問看護は、在宅療養の核となるサービスであり、医療と介護の連携を推進する上で大きな役割が期待されております。

このため県では、地域医療介護総合確保基金を活用して、訪問看護ステーションの新設に係る経費を助成し、ステーション数の増加を促進しているほか、訪問看護師を育成するための同行訪問研修に要する人件費の助成により、ステーションの規模拡大を支援しております。また、今年度から新規事業として、病院看護師の訪問看護ステーションへの出向研修を支援する事業を立ち上げ、これまで以上に病院と訪問看護ステーションの連携を促すなど、訪問看護の提供体制の充実や、円滑な在宅医療への移行に取り組むこととしています。貴協議会におかれましても、本県からの委託事業などにより、訪問看護師研修や就業セミナー、普及啓発事業などを実施していただいております。今後も訪問看護師の資質向上や裾野の拡大に県と貴協議会が手を携えて取り組んで参りたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。

さて、私事で恐縮ですが、昨年、訪問看護のお世話になりながら自宅で療養を続けていた家族が亡くなりました。本人は、的確な看護技術と専門的な知

識、そして患者を思いやる心に、痛みと不安を和らげられ、闘病を続ける中でも、家族と暮らし続けられる喜びと、日々の生活に張りを持つことができ、訪問看護師の方には、幾度となく感謝をしておりました。そして、そのような姿を見られることが、私たち家族にとっても救いになっていました。残念ながら家族は亡くなりましたが、訪問看護の重要性と在宅療養の意義を教えてくださいました。

現在、在宅療養が広まっていく中で、自らが希望する医療やケアについて、患者自身が前もって考え、家族をはじめ、周囲の信頼する人たちと話し合い、共有する「人生会議」の愛称で知られるACP（アドバンス・ケア・プランニング）が推進されています。もちろん、全ての方が自分の望むように人生を全うできるものではありませんが、在宅医療・介護に従事する方々にとっては、患者や家族に寄り添い、患者の希望や思いを理解しながら、望んでいる最期を迎えられるように支援していくことが、これからの在宅療養の現場で益々大切になっていくと考えます。その時に、専門性を活かして医療と介護を繋ぎ、患者・家族の声を聴き、関係者に的確に伝えることのできる訪問看護が果たす役割は、非常に大きいと思います。

在宅療養をはじめとする地域包括ケアシステムは、行政の力だけで実現できるものではなく、貴協議会、並びに会員の皆様の御協力が不可欠です。重ねて申し上げますが、訪問看護の役割は、今後さらに重要性を増すものと考えております。どうか皆様には、さらに研鑽を積まれるとともに、引き続き御尽力・御協力を賜りますようお願い申し上げます。

訪問看護ステーション協議会の益々の御発展と、会員の皆様方の御活躍・御健勝をお祈りいたします。



平成31年・令和元年度 通常総会

一般社団法人静岡県訪問看護ステーション協議会の平成31年・令和元年度通常総会は、6月22日(土)に静岡県総合研修所もくせい会館にて開催されました。会員数は194事業所で、うち出席は100事業所、委任状は62事業所で、会員の過半数の出席をもって総会は成立致しました。皆様のご協力にお礼申し上げます。来賓として、一般社団法人静岡県医師会会長 紀平幸一様、静岡県健康福祉部理事 石田貴様、地域医療課長 秋山泉様のご臨席ならびにご祝辞を賜りました。

総会では次の報告と議案が提案され、可決・承認されましたので、ご報告致します。

1. 平成30年度事業報告
2. 平成30年度決算
3. 令和元年・2年度 一般社団法人静岡県訪問看護ステーション協議会理事
(監事1名は書面審議にて7月に承認)
4. 平成31年・令和元年度事業計画・予算

【令和元年度 一般社団法人静岡県訪問看護ステーション協議会役員紹介】

会 長	渡邊 昌子	公益社団法人 静岡県看護協会	会長
副 会 長	上野 桂子	社会福祉法人 聖隷福祉事業団	監事
副 会 長	岡 慎一郎	一般社団法人 静岡県医師会	理事
理 事	立花 恒輔	一般社団法人 焼津市医師会	理事
理 事	野中美保子	ラポールあい訪問看護ステーション	所長
理 事	木原 裕美	医療法人社団 静岡健生会	訪問看護統括所長
理 事	佐々木卓子	訪問看護ステーション百葉	所長
理 事	松川 香織	訪問看護ステーションうしぶせ	所長
理 事	石神 弘美	訪問看護ステーションスポット	所長
理 事	原 との子	訪問看護ステーションあおむし	所長
理 事	大村 早苗	つどいのおか訪問看護ステーション	所長
理 事	望月多恵子	訪問看護ステーション駿河	所長
理 事	山口美津子	訪問看護ステーション住吉	所長
理 事	長瀬 由美	訪問看護ステーションいわた	所長
理 事	東 ゆり	訪問看護ステーションあすなろ	所長
理 事	野末 浩子	訪問看護ステーション白脇	所長
監 事	吉富 雄治	一般社団法人 三島市医師会	副会長
監 事	松井 順子	公益社団法人 静岡県看護協会	常務理事

東部支部長 野中美保子 中部支部長 石神 弘美 西部支部長 山口美津子

広報委員 ◎原 との子、木原 裕美、東 ゆり ※ ◎は各委員会の委員長
 研修委員 ◎長瀬 由美、松川 香織、望月多恵子
 総務委員 ◎大村 早苗、佐々木卓子、野末 浩子
 企画委員 ◎長瀬 由美、野中美保子、松川 香織、石神 弘美、望月多恵子、山口美津子
 事務局 鈴木 恵子(事務長)、徳本 みき、白鳥江里佳、佐川登美江、竹ノ内理香



全体研修会報告



訪問看護ステーションスポット

石神 弘美

テーマ：「漫画『おうちで死にたい』ができるまで」

講師：広田 奈都美氏（漫画家・看護師）

開催日時：令和元年6月22(土) 16:00～17:30

会場：静岡県総合研修所「もくせい会館」

富士ホール

参加者：127名

協議会から「おうちで死にたい」の漫画を紹介して頂いてすぐ購入、読ませて頂き、とても感動しました。そして今回広田氏の講演があり、楽しみに参加させて頂きました。

訪問看護に注目した漫画を描いて下さったことに私は感激しました。今までは病院看護師がテーマのドラマだったり、在宅のドラマでもヘルパーであったり、訪問看護の言葉が少し出てくる程度のものが多かったと思います。

この漫画を描こうと思ったきっかけは、お友達が「訪問看護が楽しい。」と話してくれたことだったそうです。「訪問看護は看護をしていると実感できる」というお友達の言葉は、その通りだと共感できます。私も、看護の基本が訪問看護にある、と新人ナースや学生さんにいつも伝えています。

訪問看護を見てみたい…と思い直ぐ取材に行かれ、作品が出来上がるまでの、私達の知らない裏側のお話も楽しく聞かせて頂きました。

取材で訪問看護を学んだ時「すごい!!」と思ったことに、

- 人のお宅に上がってケアをする。
- 一時間で全てを終わらせて帰るミッションであること。
- 家族の輪の中に入っていくこと。
- 一人で判断し、一人で行動する大変さ。

と仰っていましたが、これがまさに訪問看護の醍醐味なんだと思っています。一人の方にじっくり関わり、自分の看

護を展開し、結果が自分に返ってくる。怖さもあるが、喜びもあり、やりがいに繋がります。

毎年訪問看護ステーションの新設はありますが、その分休止や閉鎖の事業所もあります。既存のステーションの拡大化は、なかなか進みません。訪問看護師を目指す人材の確保の難しさが課題にあります。また、利用者も介護度の重い方は施設に流れる傾向になって来ています。広田氏の漫画がドラマ化され、在宅療養生活や訪問看護が広く世間に知られるようになることを期待します。

「おうちで死にたい」は、8月に3巻が出版になるとのことで楽しみにしています。このテーマでは5巻で終了となるそうですが、新しい連載で「ナースのチカラ」が始まるとのことでした。訪問看護師が主人公のお話だそうで、こちらも大変楽しみにしています。

広田氏から沢山のパワーを頂いた素敵な時間でした。ありがとうございました。





ステーション紹介

東部

ケアル訪問看護リハビリステーション

ピリ 睦



こんにちは、ケアル訪問看護リハビリステーションです。地域の皆さまや関係業種の皆さまのご協力やご指導を受け、開所6年を迎えることができました。

「思いを支え共に歩む」という志を胸に、自宅で生活することをお支えする役目となれるよう沼津市を中心に毎日走り回っています。ご苦勞のある方の見えにくい「思い」、声となって聞こえてこない「思い」にもしっかりと心を傾け、専門職として正しく状態を理解・共感し共にそのご苦勞を解決していく…この任務を、25名全員で果たすべく切磋琢磨しています。

スタッフは看護師（7名）、理学療法士（6名）、作業療法士（6名）、言語聴覚士（3名）、社会福祉

士（1名）、保育士（1名）に加え、ダブルライセンスとして介護支援専門員、栄養士、介護福祉士等の国家資格を持つ者の他、アロマセラピー、フットセラピー、新生児蘇生法、ICLS、介護予防士、産業カウンセラー、パステルアートインストラクター、測量士、リフレクソロジー等幅広い認定資格を保持する者が在籍しております。

これらの幅広い視点や経験を活かし、身の丈をわきまえつつも0歳のお子様から100歳を超える方や、精神分野を含むより広い対象

の方へ、個々の強みを活かして業務を行っています。ひとりでも多くの専門職のサービスを必要とする方へ、必要な「タイミング」で、必要な「量」のサービスを必要な「期間」提供できるよう、関係各所とのコミュニケーションも大切にしています。

今後は、訪問看護としての機能を果たしつつ、ひとりひとりの「自律」を目指した生活をより現実的なものにするために、これまで行ってきたカフェ活動や将来展開する共生型事業所などの場づくりを並行して行うと共に、地域と積極的に関わり、地域丸ごとでみんながイキイキと生きていける地域づくりにも貢献していきたいと思ひます。

次は「訪問看護ステーション桜づつみ」さんです。

中部

訪問看護ステーションれん

横田 佳苗

こんにちは。訪問看護ステーションれんです。

私たちは訪問看護に熱い思いを寄せて平成27年5月清水区大沢町で訪問看護事業を始めました。母体はなく法人は自分達で合同会社を設立、看護師4名と理学療法士1名、事務職1名と小規模なステーションではありますが、訪問看護のやりがいを肌で感じながら、楽しく、時に悩みながらも、立ち上げから今日まで駆け足で活動してきました。

「れん」・・・

- 連：連なる。続く。協力する。
- 練：繰り返し習う。身につける。
- 錬：体力や精神力、能力を強くする。
- 恋：思いやり。思いを寄せる。
- 蓮：清らかな心。神聖。沈着。

令和元年5月1日開所5年目を迎え、今では看護師の人数も増えました。スタッフは常に意見交換し



合い、みんなで考え納得して物事を進めていく姿勢です。明るく笑顔で和気藹々とした雰囲気は何よりも自慢です。そして、スタッフのセラピー！？を担当してくれるボーダーコリー犬の永遠(とわ)君も事務所に通ってきていますよ。

私たちは「迅速且つ丁寧」をモットーに、日々の業務では観察と情報共有を細目に行うことで最適な看護展開を見出し、質の高い看護サービスを提供しています。看護師と理学療法士が意見交換する場面も多く、所内では互いのスキルアップのため実技研修を行っています。関係機関との連携も積極的に行い顔の見える関係作りに努めています。

「その人らしい在宅生活の実現のために」「地域で安心して過ごせるように」…私たちは利用者に関わる人々とのコミュニケーションを大切に、寄り添える看護、最良のケアが提供できるようにいつも考



えています。

ハスの花のように真っ直ぐな思いで、地域に根付いた訪問看護ステーションを目指していきたいと思っています。

次は「ひなたぼっこ水道町訪問看護ステーション」さんです。

西部 湖西市訪問看護ステーション

松井 喜恵

こんにちは。湖西市訪問看護ステーションです。当ステーションは、2000年に開設し19年目を迎えています。職員は、看護師5名・作業療法士1名・事務員1名が従事しています。

2018年より在宅医療介護連携情報システムモデル事業に参加し、多職種間の連携が強化され、歯科医師や薬剤師など新たな連携が広がっています。ステーション内では、職員の地域連携の意識が高まり、

研修会・交流会等に積極的に参加し実務に繋がっています。また、市内には2ヶ所の総合病院がありますが、隣接した浜松・豊橋市の病院を受診される方も多く、市外の病院とも連携をしています。

職員間ではコミュニケーションが活発で、小さな問題でも皆で検討し情報共有を行い、各々の専門性を活かした活動を行っています。また「家で気持ちよく生活ができる」を念頭に、本人・家族の気持ちに寄り添えるようコミュニケーションを大切にしています。日々の会話の中からの様々な情報をアセスメントに繋げ、各々のライフスタイルに合わせたケア、本人・家族の意向に沿った看取りを実施し、皆様から沢山の温かい言葉をいただいております。今後は更にACPの活用・普及を目指しています。

そして、手の温もりを通してお互いが繋ぎ合えるタッチングを取り入れ、ひとりの人間として相手に寄り添う看護が提供できるよう、日々模索しながら訪問をしています。本人・家族の想いを大切に、そして地域連携の充実のために邁進していきます。

次は「訪問看護ステーション有玉」さんです。





「ELNEC-J コアカリキュラム看護師教育プログラム」を受講して

質の高いエンド・オブ・ライフ・ケアや緩和ケアを提供するための看護師教育プログラム「ELNEC-J」は平成31年3月23日(土)・24日(日)の2日間にわたり静岡県男女共同参画センター「あざれあ」大会議室で開催され、27名の方が受講、修了証を受け取りました。今回は受講者の一人、訪問看護ステーションいはらの稲葉一代さんに受講の感想を伺いました。

JA静岡厚生連 訪問看護ステーションいはら

稲葉 一代



スタディでのグループワーク、コミュニケーションスキルを磨くためのロールプレイであった。

学習した内容の一部を紹介する。まず、痛み・症状のマネジメントであるが、在宅療養をする上では必須である。それができていなければ、今後どのようにどこで過ごしていきたいかなど考える余裕が生まれない。痛みや症状の原因は様々で、疾患に伴うものだけではなく、全人的に多方向からアセスメントを行う必要がある。そして、看護師ができる手当てと、医師や多職種と

連携し服薬やケア等で痛みや症状が緩和できるように関わっていく。また、連携し易い環境も整備する必要があることを学んだ。

倫理的問題の中では、アドバンス・ケア・プランニングについても学んだ。国民の69.2%の人は自宅で最期を迎えたいと思っているが、実際自宅で最期を迎えられる人は13%しかいない。また、70%以上の人が最期を迎える場所を考える際には、家族等の負担にならないことや心身の苦痛がないことが重要だと思っている。高齢者だけでなく、様々な疾患や障害を抱えている全ての人が望む処で過ごせるように支えていくためには、意思を表出できるうちにどのように生きていきたいのかを繰り返し確認していくことが重要である。ロールプレイで事例を用いて患者と看護師を演じることで疑似体験して、それぞれの思いに近づくための工夫を考えることができた。

デスカンファレンスが有効であることも再認識できた。療養者と関わる人達がどのような思いを持ち、誰がどのように関わり、どのような反応があって、最期を迎えたのかを想起していくと、療養者・家族それぞれの死生観・価値観などの違いを、実際にその療養者に関わらなくても経験ができるため、看護師のスキルアップに繋がる。業務が多忙になるとデスカンファレンスは後回しになりやすいため、意識して行っていくことが必要である。

訪問看護は常にエンド・オブ・ライフと密接に関わる職種であると考えます。今回習得したスキルを活かして、少しでも多くの利用者の思いが叶えられるよう活動し、さらに継続的に学習していきたい。

私が訪問看護師になって3年目の頃、60歳代の末期癌のAさんを担当していた。Aさんはリビングウィル（生前に発効される遺書）まで準備して、「仕事をしながら絶対に家で死にたい」と公言していた。しかし、疼痛コントロールがうまくいかず、在宅で看取れる環境も整わず、看ている家族も精神的に不安定になり、仕方なく入院し病院で最期を迎えた。最期を迎える2日前に病室を訪問した際「何もできなくてごめんなさい。」と言った私に、Aさんは「これでいいんだよ。これで皆楽になる。」と朦朧とした意識の中で言った。その時のAさんの表情が忘れられない。本当にこれで良かったのだろうか、訪問看護師として何かできたのではないかと5年以上経った今でも時折思い出す。その経験から、どうしたら一人ひとりの希望に沿う最期を迎えられるのか、どのようなケアを必要としているのかという、エンド・オブ・ライフ・ケアについて集中的に勉強したいと思っていた。

今回2日間のELNEC-Jコアカリキュラムにおいてエンド・オブ・ライフ・ケアを受講する機会を得たため、学んだ事と今後に向けての考えを述べさせていただきます。

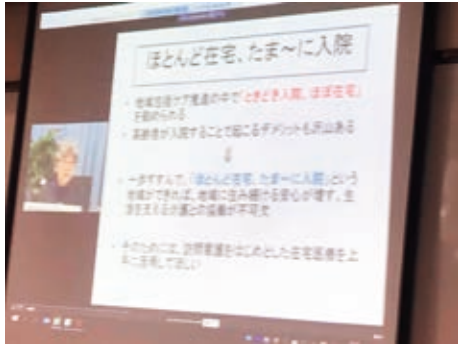
エンド・オブ・ライフ・ケアとは「病や老いなどにより、人が人生を終える時期に必要なとされるケア」と定義される。ELNEC-Jコアカリキュラムでは概念に沿ってプログラムが構成されていた。内容はエンド・オブ・ライフ・ケアを提供するため看護師の役割や基本的態度、痛み・症状のマネジメント、倫理的問題、文化への配慮などについての講義とケー



大塚ライブオン多職種協働セミナーを受講して

大塚ライブオン多職種協働セミナーが各地区で開催されました。その中から浜松市福祉交流センター（令和元年6月14日開催）と、聖隷富士病院（5月22日開催）のライブ研修についての報告です。

テーマ：『「ときどき入院、ほぼ在宅」を実現のために ～脱水対策のポイントをふまえて～』
講師：秋山 正子氏 株式会社ケアーズ代表取締役 他



訪問看護ステーション天竜

鈴木 奈津子

『「ときどき入院、ほぼ在宅」を実現のために』との表題に惹かれ、このセミナーに参加しました。

暑くなりかかるこの時期には、脱水対策が重要です。私たちのステーションでも、脱水と思われる症状で在宅生活が継続できなくなる方が少なくありません。秋山正子先生のライブオンでは「ほとんど在宅、たま～に入院」という理想的な生活を送るためには、生活を支える介護との協働と、訪問看護をはじめとした在宅医療を上手に活用し、早期発見と予防が課題と学びました。

高齢者の救急搬送の原因に発熱・脱水・誤嚥や転倒・便秘等が挙げられます。どれも脱水に関連し、6～8月の脱水が起りやすい時期に脳梗塞発症が多いというのもうなづけました。

私たちの訪問している天竜区は一日の寒暖差が大きいのが特徴です。30度近い日中に訪問した時、早朝の厚着のまま過ごしていたり、5月でも暖房を使用し窓を開けていない方も多く、ヒヤリとした経験があります。訪問時には水分補給を勧めていますが、脱水状態では水だけ補給しても電解質が足りず悪循環になることも再認識しました。

短い訪問の中では、なかなか生活状況が把握できませんが、まず私たちがきちんと食事の内容や量を聞き取り情報収集し、脱水がどの状態であるかを理解し対応することが大切です。水分補給は飲む回数や、飲む時を具体的に指導するとわかりやすいと思いました。

脱水予防でOS-1を飲用し入院が減少した施設の取り組みは素晴らしく、興味深かったです。電解質、水分の補給が効果的であることがわかりました。

今までは山間部で購入する場がないと思い諦めていたOS-1も、効果を伝え、家族らに連絡し積極的に飲用を勧めていき、在宅生活を長く続けられるように支援していきたいです。

訪問看護ステーションけいあい

望月 征美

令和元年5月22日に『「ときどき入院、ほぼ在宅」を実現のために ～脱水対策のポイントをふまえて～』をテーマに秋山正子先生が御講演下さいました。秋山先生の施設と聖隷富士病院をつなぎ、ライブビューで行う画期的な講義でした。参加者は訪問看護師やケアマネジャー等、40名が集まりました。

講義では、高齢者が入院する事によるデメリットが沢山あると学びました。「ほとんど在宅、たま～に入院」ができることで安心して地域に住み続けることができます。そのためには、訪問看護をはじめとした在宅医療を上手に活用してほしい、と話されていました。そのような地域を実現できるよう、訪問看護師の立場から地域や多職種との連携を密にする必要があると感じました。

夏の初めから熱中症が始まり、室内でも起り入院してしまうことも多くなります。高齢者は水分摂取量が減り、殊に食事から摂れていた水分が相対的に減ることが多く、まして嚥下機能も落ち、さらさらした水分はムセやすくなっています。まずはゼリータイプで補水することを推進していました。経口補水液をカバンに忍ばせて訪問、とアドバイスいただきました。

高齢者の特徴として、エアコンを使わない・窓を閉め切る・夜間の排尿を気にして水分を控えるなど、当事業所の利用者を想像できる生活状況があります。そのためにも適切なアセスメントや生活環境の調整が必要であり、訪問看護師のみでなく、家族・関係機関や地域とも連携し、早め早めの対処が重要であると思いました。

脱水の講義ではありましたが「ほとんど在宅、たま～に入院」を実現するためにも、訪問看護への期待や役割の重要性について考えさせられる講義でした。





研修のお知らせ

◆**就業セミナー** 一人でも多くの方に参加していただけるよう、積極的な周知に皆様のご協力をお願いします。

	1日目	2日目	3日目	会場
東部	9月30日(月)	実習： 希望日に3時間 程度の同行 訪問	10月7日(月)	プラサヴェルデ会議室1（沼津市）
中部	10月16日(水)		10月30日(水)	県総合社会福祉会館シズウェル104会議室（静岡市葵区）
	11月19日(火)		11月26日(火)	清水テルサ7階小会議室1（静岡市清水区）
西部	10月8日(火)		10月17日(水)	浜松市子育て情報センター研修室1（浜松市中区）

◆**技術向上研修** 今年度からスタートした研修です。訪問看護に必要なスキンケア・褥瘡・ストーマケア等についての基本的な技術と最新情報を学びます。各日程の1週間前まで申込可能です。

地区	開催日時	会場
東部	令和元年10月5日(土) 13:30~16:30	プラサヴェルデ407（沼津市）
	令和元年10月9日(水) 18:00~20:00	聖隷富士病院
中部	令和元年10月21日(月)・令和2年1月28日(火) 18:15~20:15	あざれあ第1研修室（静岡市葵区）

◆**訪問看護ステーション看護師研修** 新任研修(全2日)に申し込まれた方は、2日目も忘れず受講して下さい。

研修名	開催日時	会場
新任研修	第2日目 令和元年10月19日(土) 10:00~16:00	あざれあ第1研修室（静岡市葵区）
ジェネラル研修	第2日目 令和元年10月26日(土) 10:00~16:00	もくせい会館第1会議室（静岡市葵区）
	第3日目 令和2年1月11日(土) 10:00~16:00	
管理者研修	全1日 令和元年11月30日(土) 13:30~16:30	シズウェル103会議室（静岡市葵区）

◆**リンパドレナージ研修** リンパ浮腫のケアについて学ぶ今年度の新しい研修です。(東部は令和2年1/25・26開催)

地区	開催日時(各地区全2日間)	会場
西部	令和元年11月9日(土) 13:30~16:00 ・ 10日(日) 10:00~16:00	研修交流センター 51研修交流室
中部	令和元年12月21日(土) 13:30~16:00 ・ 22日(日) 10:00~16:00	あざれあ第1研修室

◆**在宅ターミナルケア研修** 東部は令和2年1/25(土)・2/8(土)・2/29(土)に開催します。

地区	開催日時(各地区全3日間)	会場
西部	令和元年11月9日(土) 10:00~12:30 11月23日(土)・12月7日(土) 10:00~16:00	研修交流センター 51研修交流室
中部	令和元年12月21日(土) 10:00~12:30	あざれあ第1研修室
	令和2年2月1日(土)・2月15日(土) 10:00~16:00	シズウェル101会議室

編集後記

暑い夏が終わり、秋の虫たちの声が聞こえてきています。

2年毎の利用者満足度調査が終わりました。結果が気になりますが、日々の看護の結果として受け止め、質の向上に努めていきましょう。



シェイクハンドNo.57

2019年9月発行

発行所 一般社団法人 静岡県訪問看護ステーション協議会
〒420-0044
静岡市葵区西門町2-7
スズビル001 701号室
Tel 054-275-3339
Fax 054-275-3338
e-mail sizuokahoumonst@cy.tnc.ne.jp

発行人 渡邊 昌子
編集者 木原 裕美(医療法人社団静岡健生会) 東部
原 とのこ(訪問看護ステーションあおむし) 中部
東 ゆり(訪問看護ステーションあすなろ) 西部